高校生における性行動と性教育に対するニーズ

竹原 健二^{1,2} 三砂ちづる^{2,3} 本田 靖¹

Sexual behavior and sex education needs among high school students

Kenji TAKEHARA^{1,2}, Chizuru MISAGO^{2,3} and Yasushi HONDA¹

The purpose of this study is to comprehend the correlation between the conditions of experience in sexual behavior and the sex education needs of high school students.

We conducted a cross-sectional study in January-February 2004 using self-response sheets targeting 681 students (15-16 years old) attending three public high schools in Ibaraki Prefecture and received valid responses from 627. The subjects of the analysis were divided into three groups depending on the conditions of experience in sexual behavior. We found that, as sexual behavior becomes more active, there are more pressing needs for sexual behavior related information such as “contraceptive methods” and “sexually transmitted infectious diseases” while less interest is shown in “male and female psychology” or “interaction between the sexes.” It became clear that the source of sex-related information is shifting from textbooks and school instruction to friends and news media. Although 30-40% of the subjects responded that they wanted to know more about the “nature of love” and “interaction between the sexes,” that is hardly handled in sex education.

This suggests that needs and the sources of information on sex-related issues also differ. Judging from this result, if instruction in sex education had more varied content depending on experience in sexual behavior, there would likely be a strong possibility of being able to respond better to student needs. Though the primary issues handled in current sex education are probably centered in the provision of medical knowledge, it can be assumed that high school students want to know more essential matters as well as specific methods and it would be desirable for sex education to provide more multifaceted information.

Key words : sex education, sexual behavior, high school student, STD

性教育, 性行動, 高校生, 性感染症

¹ 筑波大学大学院人間総合科学研究科

² 国立保健医療科学院疫学部

³ 津田塾大学学芸学部

¹ *University of Tsukuba Graduate School of Comprehensive Human Sciences*

² *Department of Epidemiology, National Institute of Public Health*

³ *Faculty of Liberal Arts, Tsuda College*

I 緒 言

わが国では若者の性に関する知識や性意識については大嶺ほか(1999)の研究, 性行動の実態については木原・木原(2003), 西村・石神(1999), 劔(2003)の研究, 性に関する情報源などについては山田(1994), 内山(2003)の研究などがおこなわれている。性教育における介入研究やその評価も木原ほか(2003), 劔(2001), 松沼(2003)などによっておこなわれている。これらの研究などによって若者の性行動の様々な実態や問題点が明らかにされ, 性教育プログラムの作成に役立てられてきた。

高校生の性に関する実態調査からは, 高校生のうち学校で性教育を受けたことがある者は95%前後となっており(財団法人日本性教育協会, 2001), 学校ベースの性教育はほとんどの高校生に提供されていると言えよう。その一方で, 高校生男女におけるセックス経験者のうち, 避妊を毎回している者は35.5%であった(藤井, 2003)。また, セックスをしている高校2年生のうち, コンドーム常時使用者は20.4~27%であった。コンドームの使用方法に関する教育を受けた経験が実際のコンドーム使用状況に効果をもたらしておらず, これまでの性教育の範囲でおこなわれていたコンドーム教育では若者の性行動を変えるという効果はあがっていないということが示唆されている(木原ほか, 2003)。これらの結果は, 従来の性教育が高校生の性行動に対して十分な効果を与えることはできなかったことを示している。

若者側からの性教育に対するニーズについては, 日本性教育協会の調査(2001)がおこなわれている。その他では, 従来の性教育に対する満足度が低いことや(大東ほか, 2004), 若者が自身の性に関する情報は不足していると感じていると言われており(劔, 2004), 性教育に対する若者のニーズに関する研究は実施されているものの, 十分であるとは言えない。

現在, わが国では中学校を卒業した若者の97%が高校に進学しており(文部科学統計要覧, 2003),

高校は若者に対して性教育をはじめとする健康教育を実施できる場所として, 大きな可能性を持っていると考えられる。本研究では, 少しでも若者のニーズに即した教育を実施するために, まず性行動の経験状況(以下, 性行動ステップ: 性行動の経験状況によって, 「1. 男女交際・セックスともに経験がない群」, 「2. 男女交際の経験はあるが, セックスの経験がない群」, 「3. 男女交際・セックスともに経験がある群」と3つのステップに分類すること)による分類に基づく調査を試みた。その上で, 性行動ステップと性教育に対するニーズの関連について把握することを目的とした。

II 方 法

1. 調査対象

茨城県T市の県立高校6校のうち, 4校に調査協力を依頼し, 協力が得られた工業系高校1校と普通科高校2校の計3校(以下, 順不同でA・B・C校とする)に所属する高校1年生(15~16歳)の男女681人全員を調査対象者とした。調査対象校は対象者が同じ学年であり, なおかつ学力や校風が異なる高校になるように配慮した上で高校を選んだ。対象者の学年については, 調査対象校の関係者と議論したうえで, 高校1年生であれば協力を得られるとの理由から決定した。茨城県では「保健」の授業は原則として入学年次およびその次の年次の2年間にわたり履修させるよう定められているため(茨城県教育委員会, 2000), 1年生を対象としても, 性教育の実施状況における施設差に大きな違いは見られないと考えた。

2. 調査方法

研究デザインは無記名自記式質問票を用いた横断研究とした。データ収集は2004年1~2月に, それぞれの高校の教室でおこなった。質問票の配布および回収は, 各高校の教員によっておこなわれた。性に関する調査という性質上, 対象者のプライバシーの保護に配慮し, 以下のように作業を進めた。各高校に調査への協力を依頼した際に, 学校長に研究目的と質問票の内容についてチェッ

クを受け、質問票における不適当な表現を改善するとともに、調査方法などについて対象者のプライバシーが保護できるような方法について検討した。そして調査を開始する前に対象者に対して、匿名性が確保されていることや、個々のアンケートが学校関係者や保護者などに見られることはないこと、回答したくない場合や調査に協力したくない場合は回答を拒否し、白紙で提出できることを口頭および文書にて説明した。質問票とともにシールつきの茶封筒を配布し、質問票を回収する際には対象者自身が質問票を茶封筒に入れ、封をした状態で回収袋に提出してもらった。本研究では対象者から調査協力に対する署名入りの同意書は得ていない。しかし、上記のように調査の趣旨や、回答の自由について十分な説明をした上で調査を実施したため、質問への回答および、質問票の提出をもって調査への同意が得られたと考えた。

3. 調査項目

本研究に先立ち、本研究の対象者ではない高校生男女計8名を対象に、性教育に対するニーズに関する質的調査を実施し、回答における誤分類などを防ぐために質問票の文章や回答項目を作成する際の参考とした。また、養護教諭や学校関係者および他の研究者などと質問票の内容について吟味した。

質問票は性別などの属性、男女交際やセックスの経験の有無、性教育で教わった内容、性に関する内容へのニーズ、性に関する知識、性に関する情報源によって構成されている。本研究で用いる“ニーズ”とは、「自分や恋人のために知っておきたいこと」と定義した。「性に関する内容へのニーズ」と「性教育で教わった内容」の項目は1999年に実施された全国調査（財団法人日本性教育協会、2001）の質問票から、性教育で教わった事柄を尋ねる17項目の表現の一部を改善して作成した17項目とした。この17項目について、性教育の授業で教わったことがあるか、ニーズ（知っておきたいと思うか）があるかを尋ね、その有無について

「はい/いいえ」の2件法を用いて回答を得た。

4. 解 析

収集したデータは単変量解析をおこなった後、男女交際の経験とセックスの経験をクロス集計し、性行動ステップの3群と「男女交際の経験はないが、セックスの経験がある」という群の計4群に分類した。交絡因子として性別を制御した二変量解析として χ^2 検定をおこなった。性行動ステップは「1. 男女交際・セックスともに経験がない」から「3. 男女交際・セックスともに経験がある」への一方向の順序性があると考えられるため、傾向性検定（Trend test）をおこなった。本研究では有意水準を5%とし、解析にはSPSS(Ver. 11.0)を使用した。

III 結 果

1. 対象者の属性

調査対象者681人のうち、調査実施日に欠席したものなどを除く644名から回答が得られた。その中から無回答者4名を分析対象から除いた。さらに性別が不明な者13名を除いた627名（92.1%）を分析対象者とした（表1）。

分析対象者の性別は男性が331人、女性が296人であり、対象となった3つの高校には男女の分布にばらつきが見られた。

性行動ステップについては「1. 男女交際もセックスも経験がない」群（男子50.6%、女子37.4%）、「2. 男女交際の経験はあるが、セックスの経験はない」群（男子34.4%、女子37.4%）、「3. 男女交際・セックスともに経験がある」群（男子14.9%、女子

表1 対象校別の有効回答数と有効回答率

	有効回答数			在籍者数	有効回答率
	男性	女性	合計		
A 高校	114	58	172	198	86.9
B 高校	78	69	147	163	90.2
C 高校	139	169	308	320	96.2
合計	331	296	627	681	92.1

表2 対象者の性行動ステップと性差

	A 校				B 校				C 校				合計			
	男性		女性		男性		女性		男性		女性		男性		女性	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
交際経験・性交経験なし	48	(45.7)	18	(36.7)	44	(62.9)	16	(25.0)	64	(48.1)	70	(42.4)	156	(50.6)	104	(37.4)
交際経験あり 性交経験なし	39	(37.1)	19	(38.8)	17	(24.3)	15	(23.4)	50	(37.6)	70	(42.4)	106	(34.4)	104	(37.4)
交際経験・性交経験あり	18	(17.1)	12	(24.5)	9	(12.9)	33	(51.6)	19	(14.3)	25	(15.2)	46	(14.9)	70	(25.2)

25.2%)となった。また、「男女交際の経験はないが、セックスの経験はある」という者はいなかった(表2)。性行動ステップについては男女差が認められたため、3校のデータをまとめた上で性別を層化して解析を実施することとした。

2. 性行動ステップと性に関する内容へのニーズ

男女別に性行動ステップと性に関する内容へのニーズの関連について χ^2 検定および傾向性検定をおこなった(表3, 4)。男女ともに性行動ステップが高まるほどに「初経」や「精通」といった異性の身体の仕組みについて興味を持つことが明らかになった。また、女性において性行動ステップが高まるほど「セックス」や「避妊の方法」、「性感染症」、「愛とは何か」に関して性教育におけるニーズが強くなる傾向が見られた。

一方、男性においては性行動ステップが低いほど「男性と女性の心理」についてニーズが強くなる傾向が見られた。また、男女交際経験があり、セックスの経験がない者は「異性ととの交際」についてのニーズが強いことも認められた。

3. 性行動ステップと授業の経験

実際に性行動ステップが授業で扱われていた内容と関連していたかということを調べるために、男女別に性行動ステップと性教育で教わった内容の関連について χ^2 検定および傾向性検定をおこなった(表5, 6)。すべての性行動ステップにおい

て、「性器のつくり」や「二次性徴」、「生命誕生」、「性感染症」、「エイズ」については男女ともに授業で教わったことがある者が多かった。

男女別に見てみると、男性では「セックス」や「避妊の方法」について、性行動ステップが高まるほど授業で教わった者の割合が増加し、性交経験のある者の約70%が教わっていた。「性欲の処理」や「性の持つ意味」、「異性ととの交際」については男女交際および性交経験がある者において、男女交際経験がない者や、男女交際のみ経験している者に比べて高い割合を示した。

一方、女性においては男性と同様に「セックス」や「避妊の方法」について、性交経験のある者の約60%が教わっていた。「精通」、「性欲の処理」、「異性ととの交際」、「愛とは何か」については、性行動ステップが高まるほど授業で教わった者の割合が増加していた。

4. 性行動ステップと性の情報源

性行動ステップの違いによって、性に関する情報源がどのように変化していくのかということ把握するために、性行動ステップと性に関する情報源について傾向性検定をおこなった(表7)。男女ともに性行動ステップが高まるほど、「同性の友達」や「異性の友達」、「先輩・後輩」、「テレビ・ビデオ」から性に関する情報を集めるようになることが明らかになった。また、男性の場合には「雑誌・マンガ」についても同様に、性行動ステップが高まるほど、性の情報源になり得ることが認め

表3 茨城県立高校3校における性行動ステップと授業内容へのニーズの関連 (男性)

授業内容	男性							
	交際経験なし 性交経験なし		交際経験あり 性交経験なし		交際経験あり 性交経験あり		p-value for χ^2	p-value for trend
	n	%	n	%	n	%		
性器のつくり	24	(17.1)	17	(17.2)	5	(11.6)	= 0.665	= 0.483
初経	14	(10.0)	22	(22.2)	15	(34.9)	< 0.001	< 0.001
精通	16	(11.4)	12	(12.1)	7	(16.3)	= 0.696	= 0.452
二次性徴	10	(7.1)	6	(6.1)	2	(4.7)	= 0.832	= 0.546
生命誕生	54	(38.6)	42	(42.4)	15	(34.9)	= 0.675	= 0.891
セックス	59	(42.1)	53	(53.5)	21	(48.8)	= 0.215	= 0.205
避妊の方法	61	(43.6)	44	(44.4)	27	(62.8)	= 0.073	= 0.062
性感染症	83	(59.3)	59	(59.6)	26	(60.5)	= 0.991	= 0.896
エイズ	88	(62.9)	58	(58.6)	24	(55.8)	= 0.649	= 0.357
性欲の処理	27	(19.3)	11	(11.1)	5	(11.6)	= 0.173	= 0.102
性に関する相談	20	(14.3)	11	(11.1)	2	(4.7)	= 0.222	= 0.091
思春期心理	25	(17.9)	23	(23.2)	5	(11.6)	= 0.246	= 0.712
男性と女性の心理	62	(44.3)	36	(36.4)	12	(27.9)	= 0.125	= 0.042
異性との交際	55	(39.3)	43	(43.4)	9	(20.9)	= 0.036	= 0.122
男女の役割	36	(25.7)	19	(19.2)	6	(14.0)	= 0.200	= 0.074
性の持つ意味	31	(22.1)	21	(21.2)	9	(20.9)	= 0.978	= 0.840
愛とは何か	51	(36.4)	42	(42.4)	16	(37.2)	= 0.630	= 0.676

表4 茨城県立高校3校における性行動ステップと授業内容へのニーズの関連 (女性)

授業内容	女性							
	交際経験なし 性交経験なし		交際経験あり 性交経験なし		交際経験あり 性交経験あり		p-value for χ^2	p-value for trend
	n	%	n	%	n	%		
性器のつくり	8	(8.0)	9	(8.7)	4	(6.2)	= 0.837	= 0.710
初経	17	(17.0)	15	(14.4)	15	(23.1)	= 0.350	= 0.393
精通	6	(6.0)	8	(7.7)	14	(21.5)	= 0.003	= 0.003
二次性徴	3	(3.0)	2	(1.9)	2	(3.1)	= 0.857	= 0.965
生命誕生	49	(49.0)	41	(39.4)	32	(49.2)	= 0.300	= 0.858
セックス	44	(44.0)	50	(48.1)	43	(66.2)	= 0.016	= 0.008
避妊の方法	56	(56.0)	76	(73.1)	50	(76.9)	= 0.006	= 0.003
性感染症	59	(59.0)	70	(67.3)	51	(78.5)	= 0.034	= 0.010
エイズ	63	(63.0)	58	(55.8)	41	(63.1)	= 0.496	= 0.882
性欲の処理	13	(13.0)	12	(11.5)	7	(10.8)	= 0.901	= 0.655
性に関する相談	22	(22.0)	12	(11.5)	3	(4.6)	= 0.005	= 0.001
思春期心理	14	(14.0)	14	(13.5)	7	(10.8)	= 0.821	= 0.567
男性と女性の心理	32	(32.0)	42	(40.4)	20	(30.8)	= 0.327	= 0.970
異性との交際	36	(36.0)	37	(35.6)	23	(35.4)	= 0.996	= 0.933
男女の役割	11	(11.0)	18	(17.3)	3	(4.6)	= 0.430	= 0.350
性の持つ意味	11	(11.0)	12	(11.5)	8	(12.3)	= 0.967	= 0.799
愛とは何か	24	(24.0)	31	(29.8)	29	(44.6)	= 0.019	= 0.007

表5 茨城県立高校3校における性行動ステップとの授業経験の関連 (男性)

授業経験 (あり)	男性					
	交際経験なし 性交経験なし		交際経験あり 性交経験なし		交際経験あり 性交経験あり	
	n	%	n	%	n	%
性器のつくり	87	(63.5)	63	(63.6)	30	(71.4)
初経	49	(35.8)	36	(36.4)	21	(50.0)
精通	65	(47.4)	45	(45.5)	28	(66.7)
二次性徴	86	(62.8)	57	(57.6)	29	(69.0)
生命誕生	88	(64.2)	72	(72.7)	32	(76.2)
セックス	61	(44.5)	39	(39.4)	30	(71.4)
避妊の方法	58	(42.3)	48	(48.5)	30	(71.4)
性感染症	101	(73.7)	78	(78.8)	32	(76.2)
エイズ	123	(89.8)	81	(81.8)	38	(90.5)
性欲の処理	26	(19.0)	16	(16.2)	15	(35.7)
性に関する相談	37	(27.0)	27	(27.3)	10	(23.8)
思春期心理	60	(43.8)	48	(48.5)	20	(47.6)
男性と女性の心理	26	(19.0)	23	(23.2)	9	(21.4)
異性との交際	16	(11.7)	11	(11.1)	11	(26.2)
男女の役割	27	(19.7)	14	(14.1)	10	(23.8)
性の持つ意味	11	(8.0)	5	(5.1)	8	(19.0)
愛とは何か	8	(5.8)	7	(7.1)	3	(7.1)
					= 0.616	= 0.436
					= 0.227	= 0.163
					= 0.054	= 0.094
					= 0.419	= 0.763
					= 0.211	= 0.086
					= 0.002	= 0.027
					= 0.004	= 0.002
					= 0.668	= 0.549
					= 0.154	= 0.572
					= 0.026	= 0.083
					= 0.904	= 0.749
					= 0.756	= 0.536
					= 0.726	= 0.567
					= 0.037	= 0.055
					= 0.337	= 0.927
					= 0.024	= 0.127
					= 0.914	= 0.700

表6 茨城県立高校3校における性行動ステップとの授業経験の関連 (女性)

授業経験 (あり)	女性					
	交際経験なし 性交経験なし		交際経験あり 性交経験なし		交際経験あり 性交経験あり	
	n	%	n	%	n	%
性器のつくり	78	(79.6)	78	(75.0)	51	(72.9)
初経	85	(86.7)	94	(90.4)	62	(88.6)
精通	49	(50.0)	57	(54.8)	47	(67.1)
二次性徴	69	(70.4)	77	(74.0)	55	(78.6)
生命誕生	82	(83.7)	81	(77.9)	59	(84.3)
セックス	44	(44.9)	41	(39.4)	42	(60.0)
避妊の方法	53	(54.1)	52	(50.0)	48	(68.6)
性感染症	85	(86.7)	83	(79.8)	60	(85.7)
エイズ	86	(87.8)	86	(82.7)	62	(88.6)
性欲の処理	13	(13.3)	9	(8.7)	19	(27.1)
性に関する相談	28	(28.6)	26	(25.0)	20	(28.6)
思春期心理	45	(45.9)	65	(62.5)	41	(58.6)
男性と女性の心理	23	(23.5)	27	(26.0)	24	(34.3)
異性との交際	11	(11.2)	12	(11.5)	17	(24.3)
男女の役割	15	(15.3)	17	(16.3)	19	(27.1)
性の持つ意味	6	(6.1)	8	(7.7)	8	(11.4)
愛とは何か	4	(4.1)	7	(6.7)	9	(12.9)
					= 0.568	= 0.300
					= 0.717	= 0.658
					= 0.081	= 0.031
					= 0.494	= 0.237
					= 0.455	= 0.976
					= 0.026	= 0.085
					= 0.046	= 0.092
					= 0.362	= 0.747
					= 0.453	= 0.984
					= 0.003	= 0.026
					= 0.813	= 0.947
					= 0.051	= 0.071
					= 0.280	= 0.133
					= 0.032	= 0.026
					= 0.111	= 0.066
					= 0.453	= 0.224
					= 0.095	= 0.036

表7 茨城県立高校3校における性行動ステップと性に関する情報源の関連

情報源	男性				p-value	女性				p-value
	交際経験なし 性交経験なし	交際経験あり 性交経験なし	交際経験あり 性交経験あり			交際経験なし 性交経験なし	交際経験あり 性交経験なし	交際経験あり 性交経験あり		
	n %	n %	n %			n %	n %	n %		
親	5 (3.4)	4 (3.9)	3 (6.5)	= 0.394		8 (8.2)	11 (10.6)	5 (7.2)	= 0.906	
兄弟姉妹	11 (7.4)	1 (1.0)	1 (2.2)	= 0.032		4 (4.1)	8 (7.7)	8 (11.6)	= 0.067	
同性の友達	82 (55.4)	78 (75.7)	37 (80.4)	< 0.001		50 (51.0)	76 (73.1)	58 (84.1)	< 0.001	
異性の友達	8 (5.4)	17 (16.5)	15 (32.6)	< 0.001		8 (8.2)	28 (26.9)	40 (58.0)	< 0.001	
先輩後輩	24 (16.2)	32 (31.1)	19 (41.3)	< 0.001		4 (4.1)	15 (14.4)	32 (46.4)	< 0.001	
先生	11 (7.4)	7 (6.8)	2 (4.3)	= 0.501		9 (9.2)	3 (2.9)	4 (5.8)	= 0.277	
学校の授業	48 (32.4)	24 (23.3)	5 (10.9)	= 0.003		53 (54.1)	33 (31.7)	15 (21.7)	< 0.001	
教科書	30 (20.3)	16 (15.5)	4 (8.7)	= 0.062		28 (28.6)	20 (19.2)	8 (11.6)	= 0.007	
雑誌・マンガ	54 (36.5)	42 (40.8)	29 (63.0)	= 0.004		43 (43.9)	40 (38.5)	38 (55.1)	= 0.213	
その他の本	30 (20.3)	16 (15.5)	12 (26.1)	= 0.701		10 (10.2)	5 (4.8)	9 (13.0)	= 0.667	
テレビ・ビデオ	52 (35.1)	33 (32.0)	27 (58.7)	= 0.028		22 (22.4)	18 (17.3)	33 (47.8)	= 0.001	
インターネット	30 (20.3)	25 (24.3)	16 (34.8)	= 0.054		9 (9.2)	7 (6.7)	7 (10.1)	= 0.897	

p-value for trend test

られた。

その一方で、「学校の授業」や「教科書」は性行動ステップが低い者にとっての有用な情報源となり、性行動ステップが高まるほど情報源とされなくなってくることが明らかになった。

5. 男女関係に関する内容の不足

3つの性行動ステップのいずれにおいても、授業で教わった内容と高校生のニーズの間に大きな差が見られたのは、「男性と女性の心理」や「異性との交際」、「愛とは何か」といった事柄であった(表3~6)。これらは男女ともにどの性行動ステップに属する者においても約30%のニーズがあり、「避妊の方法」や「性感染症」といったセックスに関する内容に次いで高いニーズがあったにもかかわらず、授業で教わったことがある者は20%前後であった。

IV 考 察

1. 本研究の限界と可能性

対象校は調査を依頼し、調査計画や内容について了承を得られた高校であり、無作為抽出をおこなっていない。そのため、対象者がわが国の高校

1年生を代表しているとは言えない。しかし、全対象者のうち性交経験者は男子15.2%、女子26.2%であり、財団法人日本性教育協会(2001)が実施した全国調査による高校生の性交経験率(男子26.5%、女子23.7%)と比較すると女子の性交の経験率に差は見られないものの、男子の性交の経験率が低かった。コンドームの常用率は男子56.8%、女子46.3%であり、全国調査の男子51.5%、女子47.6%と比較するとほとんど違いは見られなかった。また、性教育の授業経験者は92.1%でこれも全国調査との大きな違いは見られなかった。以上のことにより、本研究の結果から高校1年生の性教育に対するニーズや性行動などに関する傾向を検討・示唆することは可能であると考えた。

対象者が今までに受けた性教育の授業の内容や方法については所属する中学によって異なると考えられる。教育委員会の方針(茨城県教育委員会, 2000)から、調査対象校3校それぞれで性教育が実施されていると予想していたが、実際には3つの高校のうち1つの高校は1年次には性教育の授業はおこなっていないかった。これらのことから、性教育で教わった経験のある内容は対象者によって異なっていると考えられる。しかし、本研究は

個人の性行動の状況と性教育に対するニーズなどを分析しているため、性教育を教わった経験のある内容に関する個人差が結果に大きな影響を及ぼしているとは言えない。

「セックス」や「避妊の方法」といった項目については性交経験がある者はその60～70%が教わったと回答しているのに対して、性交経験のない残りの2群では40～50%となっている。性教育にて教わった内容に個人差が生じているのは、所属した学校による教育内容の差のみが原因と言えるだろうか。学校で同じ内容の授業を聞いても、性交経験がある者となない者で、授業で扱われた内容の受け取り方が異なっている可能性も考えられる。対象者によって、教わった内容に差が生じていることは、本研究の回答項目がわかりにくかったということも考えられるが、学校における授業の教育方法により改善する余地があることを示しているとも思われる。

本研究で用いられている性行動ステップは、若者の性行動の状態を細分化するために独自に開発したものであり、その信頼性と妥当性については本研究では検討していない。今後の研究で検討されることが望まれる。

2. 従来の性教育の問題点と今後の展望

文部科学省が掲げている学習指導要領（2003年）では「性教育」としての科目設定はなく、道徳や理科、保健体育などの授業で性に関する内容が適時、扱われている状況である。性教育独自の教科書もなく、各教育現場でその扱いは異なっていることが考えられる。現実には性交経験がある高校生の約70%は「セックス」や「避妊の方法」といったことについて学校で教わっていることが本研究の結果から明らかになった。このことは、従来の性教育において10代の性感染症罹患率の上昇や、望まない妊娠の増加といった現状への対策が重要視されてきた結果が表れていると考えられる。一方、「異性ととの交際」や「愛とは何か」といった恋愛のより本質的な部分について教わった経験のある高校生は20%前後と少なく、現在おこ

なわれている性教育の内容はHIV/AIDSや避妊といったセックスに関係する医学的な知識の提供が中心となっていると言えよう。しかし、学校における避妊や性感染症罹患予防に関する性教育の効果については国内外で数多くの介入研究がおこなわれており、大規模な研究においても、性教育による介入と若者の性行動のリスク低下との関連が認められた研究（Sylvana et al., 2005；Kirby et al., 2004）と、認められなかった研究があり（DiCenso et al., 2002；Wight et al., 2002；木原ほか, 2003；釧, 2001；Walker et al., 2006）、今後多くの研究が実施される必要があると考えられる。

「愛とは何か」、「男性と女性の心理」について約40%もの高校生が知っておくべきであると考えていることから、高校生のニーズが十分に満たされていないとともに、心の結びつきに関する内容が軽視されていることがうかがえる。心の結びつきのような性行動に関する、より本質的な事柄が若者の性行動に対する考え方に影響を与える可能性があるのかもしれない。心の結びつきに関する内容は、「避妊の方法」などの医学的知識に比べて「正しい知識」が少ないため、マニュアル化することが難しい。若者が抱えている心理的な事柄に関する様々な疑問や悩みに応えるためには、グループディスカッションを用いて高校生同士が互いに相談し合えるような教育方法の導入や、ピアカウンセリングやピアエデュケーションといった同世代の仲間（peer）による手法が注目されている（渡辺ほか, 2005；宇野ほか, 2005）。

現在、わが国でおこなわれているピアエデュケーションを用いた研究に対してはいくつか留意すべき点がある。先行研究ではピアエデュケーターによって、「避妊の方法」や「性感染症」といった医学的知識やそのスキルを提供しているものも見受けられる。しかし、ピアエデュケーションは、知識やスキルの提供のようにマニュアル化できる内容の実践よりも、若者同士が性の悩みに向き合ったり、価値観を共有したりしながら、性に対する考え方を協力して習得するような、マニユア

ル化しにくい内容の教育にこそ効果を発揮するのではないだろうか。ピアエデュケーションを用いた従来の先行研究に対して、エドゥケーターやカウンセラーと対象者の関係が真のピア（仲間）ではないのではないかという指摘や（Hull et al., 2004）、ピアカウンセラーが自らの力不足を感じ、悩んでいるという現状も報告されている（前田ほか, 2005）。ピアを用いた手法は、これらの課題を改善していくことにより、さらに有効な方法になるのではないかと期待される。

3. 性行動ステップと性に関するニーズの関連

男子では男女交際の経験がない者、セックスの経験がない者ほど異性の心理についてのニーズが高く、セックスの経験がある者は「避妊の方法」に対するニーズが高かった。女子においては、性行動ステップが高まるほど、異性の身体の仕組みに興味を持ち、セックスやそれとともなう避妊や性感染症に関するニーズが高まる傾向が統計的にも認められた。自分が属するステップにおいて実際に必要な事柄や、次のステップに移行する際に必要になると思われる事柄について、そのニーズが高まる傾向があることが示唆された。また、性行動ステップが高まるほど、性に関する情報源が学校の授業や教科書から友人やメディアなどへと移行することが見られた。

日本性教育協会が実施した全国調査（2001）では、高校生におけるセックスの経験者は未経験者に比べて「性感染症」や「避妊の方法」、「愛とは何か」といった項目について知りたい者の割合が高く、「異性との交際」、「思春期の心理」などについてはセックス未経験者の方が高い割合を示している。このことは、本研究の結果を支持するものであると考えられる。この全国調査ではセックスの経験の有無のみで2群に分けているが、本研究では男女交際とセックスの経験によって高校生を3群に分けているため、性行動ステップと性に関するニーズについて、より明確な関係性が明らかにできたと言える。

若者の性に関する情報源についてはメディアに

対するニーズが高いことや、情報源そのものが不足しているということ（釼, 2004）、メディアからの情報は性に対して間違った認識を与える可能性があることは明らかにされているが（野々山ほか, 2002）、性行動ステップにより情報源に対するニーズが異なるという指摘はされていなかったため、新知見が得られたと考えられる。

性教育を実施する前に、対象となる高校生の性行動ステップを把握することは、高校生の性に関するニーズにきめ細かく対応する上で有効な情報の一つとなり得ることが示唆されたが、実際には性行動ステップによるグループ分けなどの対応は、現実的ではないため現場での工夫が必要となる。たとえば、個々のクラスで同じ内容を教えるのではなく、学年全体で連携をして、「性感染症や避妊」、「愛や男女交際」、「男女の身体のメカニズム」などの複数の異なったテーマの授業を同時におこない、高校生が希望によって好きなテーマの授業に参加できるような方法を導入すれば、性に関するニーズに対応しやすくなると考えられる。

V 結 論

高校生の性に関する内容に対するニーズや情報源は性行動ステップとともに移行していくことが明らかになった。また、現在の性教育はセックスに関する医学的知識の提供が中心になっており、「愛とは何か」などの心の結びつきに関する内容が不足していると考えられる。

謝辞

本研究は数多くの方のご協力やご支援をいただきましたことにより実施することができました。調査に快くご協力いただきました各高校の教師の皆さま、生徒の皆さまに心より御礼申し上げます。

なお、この研究は財団法人公衆衛生振興会の研究奨学金の助成により実施されました。

文 献

Bennett SE and Assefi NP (2005): School-based teenage pregnancy prevention programs: systematic re-

- view of randomized controlled trials, *Journal of Adolescent Health*, 36, 72-81
- DiCenso A, Guyatt G, Willan A et al. (2002): Interventions to reduce unintended pregnancies among adolescents: systematic review of randomized controlled trials, *BMJ*, 324, 1426
- 藤井奈緒 (2003): 高校生のクラミジア感染症に関する認識, *母性衛生*, 44 (1), 30-38
- Hull TH, Hasmi E and Widyantoro N (2004): "Peer" educator initiatives for adolescent reproductive health projects in Indonesia, *Reproductive Health Matters*, 12 (23), 29-39
- 茨城県教育委員会 (2000): 茨城県立高等学校教育課程編成の手引き
- Kirby DB, Baumler E, Coyle KK et al. (2004): The "Safer Choices" intervention: its impact on the sexual behaviors of different subgroups of high school students, *J Adolesc Health*, 35 (6), 442-452
- 木原雅子, 木原正博 (2003): 日本の若者の性意識・性行動の現状, *健康教室*, 254 (3), 66-71
- 木原正博, 橋本修二, 和田 清ほか (2003): 若者の HIV/STD 関連知識・行動・予防介入に関する研究, 平成 13 年度厚生労働科学研究費補助金先端的厚生科学研究分野エイズ対策研究事業「HIV 感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究」(総括研究報告書)
- 前田ひとみ, 山下友也 (2005): 思春期ピアカウンセリングの普及に関する研究 ピアカウンセラーのサポートの現状と課題, *日本健康教育学会誌*, 13 (Suppl), 64-65
- 松沼瑞枝 (2003): 思春期ピアカウンセリング講座の実際, *思春期学*, 21 (1), 132-139
- 文部科学統計要覧 (2003): 平成 15 年度版
- 文部科学省 (2003): 高等学校学習指導要領
- 西村正子, 石神千恵 (1999): 性行動—中学生・高校生の調査, *熊本医学会雑誌*, 73 (1), 87-93
- 野々山未希子, 石川陽子, 早乙女智子ほか (2002): 一般雑誌における性関連記事の若者への影響と若者のニーズ (第 2 報), *日本性感染症学会誌*, 13 (1), 75-80
- 大東千見, 西海ひとみ, 水畑喜代子ほか (2004): 高校生の性行動, および性教育に対する態度, 関心, 悩み, についての検討 (第 1 報)—高校生活における関心事, 悩み, 性教育へのニーズ—, *思春期学*, 22 (3), 375-383
- 大嶺ふじ子, 浜本いそえ, 小渡清江ほか (1999): 高校生の性知識・性意識を高めるためのピアエデュケーションの研究, *日本看護科学会誌*, 19 (3), 64-73
- Stephenson JM, Strange V, Forrest S et al. (2005): Pupil-led sex education in England: cluster-randomised intervention trial, *The Lancet*, 364, 338-346
- 劔 陽子 (2001): 福岡県の一高等学校における性教育前後での性行動・性意識調査, *日本性感染症学会誌*, 12 (1), 91-101
- 劔 陽子 (2003): 福岡県の定時制高校 5 校における性行動・性意識調査, *日本性感染症学会誌*, 14 (1), 42-51
- 劔 陽子 (2004): 若者の望む性に関する情報についての質問紙調査, *思春期学*, 22 (3), 423-429
- 内山絢子 (2003): 性情報源の変化と援助交際, *健康教室*, 254 (3), 72-75
- 宇野暢恵, 荒木田美香子, 戸川僚子 (2005): 中学生を対象としたピアエデュケーションによる性教育の有効性の検討 9 ヶ月後までの追跡調査, *思春期学*, 23 (3), 318-327
- 渡辺 基, 野津有司 (2005): 我が国の学校における性・エイズ教育のピアエデュケーションプログラム開発の展望 中学生・高校生を対象としたプログラムの比較, *日本健康教育学会誌*, 13 (2), 68-76
- 山田知通 (1994): マスメディアの性情報・性表現に関する意識, *学校保健研究*, 36, 8-12
- Walker D, Gutierrez JP, Torres P et al. (2006): HIV prevention in Mexican schools: prospective randomised evaluation of intervention, *BMJ*, 332, 1189-1194
- Wight D, Raab GM, Henderson M et al. (2002): Limits of teacher delivered sex education: interim behavioural outcomes from randomized trial, *BMJ*, 324, 1430-1435
- 財団法人日本性教育協会編 (2001): 「若者の性」白書～第 5 回青少年の性行動全国調査報告, 小学館, 108

(受稿 2006.1.20; 受理 2006.9.29)